

文学模擬裁判演習

【概要】 中等教育の国語科の代表的な小説教材について専門的な読み及び解説を施す。それらをモチーフにした模擬裁判のシナリオをもとに自分たちで協議し、改変していく。最終的には自分たちの言葉で創り上げたシナリオを模擬裁判として演じ、作品への読解を深め、法に止まらず矛盾した人間存在や不合理な社会についての眼差しを養う。今回は森鷗外『高瀬舟』を題材とする（他にも芥川龍之介『羅生門』,夏目漱石『こころ』,志賀直哉『范の犯罪』等がある）。

回数Lecture	担当者Instructor	学修内容Contents of the learning
第1回	札埜 和男	『高瀬舟』の読解を行う。
第2回	札埜 和男	登場人物のキャラクター化を行う。
第3回	札埜 和男	語りの構造やテーマについて理解を深める。
第4回	札埜 和男	医学的見地から作品を考える。
第5回	札埜 和男	法曹を招き、刑事裁判の基本について理解を深める。
第6回	札埜 和男	作品の舞台と当時の文化や社会への理解を深める。
第7回	札埜 和男	シナリオを読み込み、争点を理解し、同意か同意殺人か意見を持つ。また役割を決める。
第8回	札埜 和男	役割に分かれて、シナリオの改変を行う。
第9回	札埜 和男	役割に分かれて、シナリオの改変を行う。
第10回	札埜 和男	役割に分かれて、シナリオの改変を行う。
第11回	札埜 和男	互いのシナリオを持ち寄り、シナリオ内容の調整を行う。
第12回	札埜 和男	互いのシナリオを持ち寄り、シナリオ内容の調整を行う。
第13回	札埜 和男	演技と言葉の関係について意識しながら、リハーサルを行う。
第14回	札埜 和男	模擬裁判を行う。
第15回	札埜 和男	作品を改めて読み返しなが、模擬裁判の振り返りを行う。

※ 本サイトはトライアルのために第一次案として公開するものです。
無断転載等、著作権を侵害する行為はお控えください。